

## PBH1（警察犬警戒第1作業）

科目、配点 [110点満点]

### A 服従作業（80点）

科目1	紐無脚側行進	(10点)
科目2	常歩行進中の停座及び招呼	(10点)
科目3	常歩行進中の伏臥及び招呼	(10点)
科目4	常歩行進中の立止	(10点)
科目5	ダンベル持来（100g以上）	(10点)
科目6	片道障害飛越（高さ 体高の約1.2倍 最高70cm）	(10点)
科目7	休止（5分）	(10点)
科目8	立止時の銃声テスト及び対人態度	(10点)

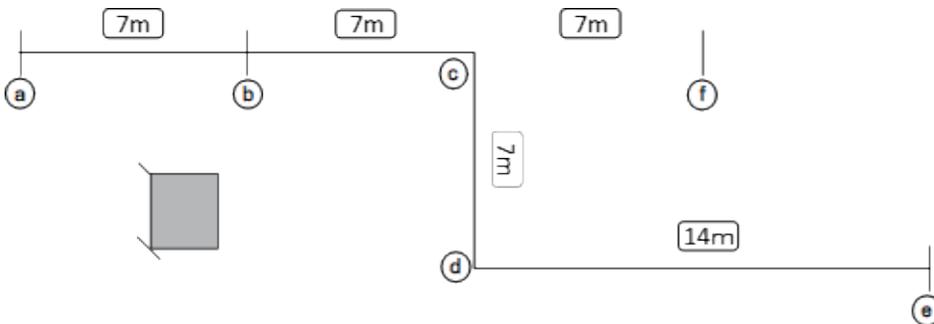
### B 警戒作業（30点）

科目1	襲撃	(10点)
科目2	中止	(10点)
科目3	監視	(10点)

### 実施要領

#### A 服従作業

コース図



#### 科目1 紐無脚側行進

声視符 「アトへ」（出発、コーナー×4、折り返し、終点）、「スワレ」

①点で紐無し（紐は指導手の肩に掛ける。）で脚側停座させ、審査員の指示により常歩で進み、③点で右折した地点から緩歩で④点に進み左折した地点から常歩で⑤点まで進み反転し、止まることなく速歩で④点で右折、③点で左折し、①点に戻り反転した地点で脚側停座させる。

#### 科目2 常歩行進中の停座及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「スワレ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、④点で指導手は歩度を変えずに犬に停座を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

#### 科目3 常歩行進中の伏臥及び招呼

声視符 直接脚側停座の場合「アトへ」、「フセ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」

対面停座の場合 「アトへ」、「フセ」、「コイ」、「スワレ」、「アトへ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、③点で指導手は歩度を変えずに犬に伏臥を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、対面停座をしてから審査員の指示により脚側停座させる。

#### 科目4 常歩行進中の立止

声視符 「アトへ」、「タッテ」、「スワレ」

①点で脚側停座させ、審査員の指示により常歩脚側行進で進み、④点で指導手は歩度を変えずに犬に立止を命じ、振り返ることなく①点まで進み犬と対面する。審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。審査員の指示により①点に戻る。

### 科目5 ダンベル持来(100g以上)

声視符 直接脚側停座の場合「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「アトへ」、「スワレ」、「ダセ」  
対面停座の場合 「マテ」、「モッテコイ」、「コイ」、「スワレ」、「ダセ」、「アトへ」、「スワレ」

指導手はダンベルを持ち@点で脚側停座させる。指導手は本科目終了までその場から移動してはならない。審査員の指示により犬に待てを命じ、ダンベルを7m以上投げる。ダンベルを投げるとき指導手は1歩踏み出してもよいが、速やかに元の姿勢に戻さなければならない。審査員の指示により持来させる。犬がダンベルを啜えたら犬を招呼し、直接脚側停座するか、対面停座をさせ審査員の指示によりダンベルを受け取る。対面停座をした場合は、審査員の指示により脚側停座させる。

### 科目6 片道障害飛越(高さ 体高の約1.2倍 最高70cm)

声視符 「トベ」、「マテ」、「スワレ」

障害から任意の位置で脚側停座させ、審査員の指示により指導手は位置を変えずに犬に飛越を命じ、飛越をしたら審査員の指示無く立止を命じる。審査員の指示により指導手は常歩で犬の右側へ行き、審査員の指示により脚側停座させる。

### 科目7 休止(5分)

声視符 「フセ」、「マテ」、「スワレ」

所定の地点で紐無し(紐は指導手の肩に掛ける。)で脚側停座させ、審査員の指示により休止を命じ、審査員の指示により犬に待てを命じ、指導手は常歩で振り返ることなく指定された物陰へ隠れる。5分後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を回り犬のもとへ戻り、審査員の指示により脚側停座させる。

### 科目8 立止時の銃声テスト及び対人態度

所定の地点で紐付きで立止を命じ、指導手は犬の体に触れることなく側に立つ、約10m離れた地点でピストル(陸上競技のスタート用)を発砲し、音響に対する態度を見る。1回で判定困難な場合は再度発砲する。対人態度等は審査員が立止している犬の近くに寄り、指導手と話をするなどしながら犬の態度を観察する。

## B 警戒作業

### 科目1 襲撃

声視符 「オソエ」

犯人から約3m離れた地点で犬を紐付きで待機させる(犬の姿勢の指定はなく、首輪に手を掛けてもよい)。審査員の指示により犯人が犬に対して威嚇動作を示す(このとき指導手は犬を鼓舞する動作をしてもよい)。審査員の指示により犬に犯人を襲撃させる。指導手は紐の長さに応じて犬と共に進むか、紐を放してもよい。犬が咬捕したら犯人は犬を左右に振り抵抗する。

### 科目2 中止

声符 「ヤメ」

審査員の指示により犯人が抵抗をやめ静止したら、審査員の指示無く指導手は犬に中止を命じる。

### 科目3 監視

声視符 「スワレ」

犬が咬捕を中止したら約5秒間の監視の後、審査員の指示により指導手は常歩で犬の右側に行き停座させ、審査員の指示により終了する。